

中学校と地域が協働する防災教育活動プラン



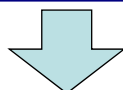
仙台市立南吉成中学校

1 プランの目的

少子高齢化と核家族化が進み、生徒を含む住民間の絆が懸念される地域において、**地域防災力を高める。**

- 災害時の**自助・共助の方策等**の構築
- 防災意識と災害対策・対応機能**の向上
- 防災・減災行動の習得と的確な判断能力**の育成

中学生が核となる**防災教育活動**に取り組み
地域住民を巻き込む活動に発展させ、
学校・生徒と住民間の協働体制に進化を図る



「**関わり**」・「**つながり**」が**継続・拡充**し、
持続可能な地域社会づくりと担い手の育成を推進

2 プランの概要

- ① **中学生が主導**(中心になって活動)して、
学校と地域が協働する**地域防災訓練**を実践
- ② **地域住民による学校・地域支援組織**を設立し
組織的に地域の防災教育とその実践を推進
- ③ **中学生が被災地仙台の復興支援活動**に取り組み、
現況を知り、自己有用感や奉仕的精神を培う実践
- ④ **多彩な企業・団体・機関等を巻き込み**、
連携・協働による防災教育実践の拡充・発展
- ⑤ **プランの成果・課題等を実証的に検証し**、
有効性、汎用性、継続性、発展性の追究・改良(PDCA)
- ⑥ **プランの成果・効果等を積極的に外部発信・広報し**、
第三者評価・助言による本プランの改良・創出

3 防災教育プランの実践概要

実践のねらい	教育実践	時期
① 震災と教訓を学ぶ ② 復興を知る、支援する	・津波被災農家等の講演会を開催 ・津波被災農家に弟子入り体験 ・仙台七夕等での清掃奉仕活動	7月上旬 7月下旬 8月上旬
③ 防災・減災の知識、 スキル、行動を習得する	・校内炊き出し調理コンテスト ・防災教育テーマ別・調査学習 ・中学生が主導する地域防災訓練 (避難所設営・運営、避難誘導など)	10月 11月
④ プランを発信する	各種大会にて実践発表、資料公表 教育研究会、東北ユネスコスクール等	10月 12月
⑤ プランを評価する 自己、外部評価、 第三者評価	・PDCAによる自己・外部評価 ・防災教育チャレンジプラン等で報告 → 指導・助言や講評	1月 2月

4 南吉成中・生徒による震災復興・奉仕活動

4-1、津波被災農家に弟子入り体験

(1)津波被災農家について

仙台市若林区荒浜地区(沿岸部)で、稲作を営んでいた農家がH23綿花生産組合を設立、H25に会社化

(2)実施内容 ① 津波被災農家が講演

「地震・津波の体験と農業再生・復興への道のり」

H24・7月 1年生 → H25・7月 1・2年生 → H26・7月 全校生徒

保護者74人



保護者100人



保護者100人



4 生徒による震災復興・奉仕活動【NO2】

② 被災地の視察・綿花畑の除草作業<7月下旬>

H24: 1年生107人

☆ 津波・海辺の視察と除草作業



H25: 1・2年生203人

☆ 津波被災・校舎の視察と除草作業



真夏の30度超えの中での農作業

H26: 全校生徒290人と保護者・教員34人

☆ 避難教室と慰霊塔の視察



☆ 農作業の説明と除草作業



4 生徒による震災復興・奉仕活動【NO3】

③ 11月下旬 綿の花収穫作業・収穫祭

<p>H24:1年生104人</p> <p>☆綿花の収穫と合唱披露</p> 	<p>H25:1・2年生203人</p> <p>☆綿花の収穫と合唱披露</p> 
--	---

H26:1・2年生190人と保護者・教員36人

☆綿花の収穫 ☆収穫祭でブラス演奏と合唱披露



4 生徒による震災復興・奉仕活動【NO4】

(3)生徒アンケート結果→ **H24年度1年生の変容**

調査は五件尺度法で行い、選択肢“大いに”の割合(%)を表記

	[平成24年度]		[平成25年度]		[平成26年度]
	〈7月〉	→〈11月〉	→〈7月〉	→〈11月〉	→〈7月〉
①自分の力が役だって嬉しい	77.0	80.7	70.1	82.8	78.5
②人を助けることは大切	90.9	87.5	82.8	87.4	83.5
③人を助け、支え合っていきたい	77.3	76.1	72.4	82.8	84.8
④苦難を乗り越える努力をしていく	76.1	76.1	77.0	79.3	79.7
⑤夢や希望を持ち続け、頑張りたい	80.7	81.8	79.3	86.2	83.5

- ・選択肢“大いに”の割合は、3年間を通じて、高い割合を維持。
- ・被災農家の姿や気持ちを受け、大きく心に響く刺激や感動を享受
- ・思いやり、努力の大切さ、夢や希望に向けての頑張りを保持

(4)保護者のコメント → 親子コミュニケーションへ**〈平成24年度〉 ※ 生徒のレポート用紙にコメント欄を付記**

- ①被災地の様子をしっかりと目に焼き付け、「自分も力になりたい」と、一回り成長した娘の姿を見ることが出来、かけがえのない体験ができ、親としても感謝申し上げます
- ②何よりの体験だったと思います。自分達も復興に関わることが、他の方の役に立つことが出来るんだという経験は宝になると思います。

〈平成25年度〉

- ③いつも自分のことで精一杯なのに、人のためになることをやってみたいと思っていることに、成長を感じました。
- ④被災地の方々の生活が一日も早く復興してほしいという願いと、小さなことでも自分も役に立てるのだという気持ちを体感できた様子がうかがえました。このことを大変嬉しく思います。

〈平成26年度〉

- ⑤震災を経験し、人ごとのように思えないのが伝わります。今の自分に何ができるのか、何をすればよいのか、そんな考えを何時までも持ち続けてほしい
- ⑥3年目を迎えた体験活動、今年も厳しい暑さの中、草取り作業を手伝わせていただき、続けたからこそ見えたものがあったようです。傷ついた人の気持ちにより添える心、人の役に立つことの大切さを、紙の上ではなく身をもって学んだと期待しています

(4)保護者のコメント → 親子コミュニケーションへ**〈平成24年度〉 ※ 生徒のレポート用紙にコメント欄を付記**

- ①被災地の様子をしっかりと目に焼き付け、「自分も力になりたい」と、一回り成長した娘の姿を見ることが出来、かけがえのない体験ができ、親としても感謝申し上げます
- ②何よりの体験だったと思います。自分達も復興に関わることが、他の方の役に立つことが出来るんだという経験は宝になると思います。

〈平成25年度〉

- ③いつも自分のことで精一杯なのに、人のためになることをやってみたいと思っていることに、成長を感じました。
- ④被災地の方々の生活が一日も早く復興してほしいという願いと、小さなことでも自分も役に立てるのだという気持ちを体感できた様子がうかがえました。このことを大変嬉しく思います。

〈平成26年度〉

- ⑤震災を経験し、人ごとのように思えないのが伝わります。今の自分に何ができるのか、何をすればよいのか、そんな考えを何時までも持ち続けてほしい
- ⑥3年目を迎えた体験活動、今年も厳しい暑さの中、草取り作業を手伝わせていただき、続けたからこそ見えたものがあったようです。傷ついた人の気持ちにより添える心、人の役に立つことの大切さを、紙の上ではなく身をもって学んだと期待しています

保護者は、活動の素晴らしさ、その成果・効果などの賞賛、実施への感謝等、親は我が子の成長に喜びを感じ、活動の継続を望んでいる。

4-2、本校・健全育成ボランティア組織「アルカス隊」

奉仕活動「**仙台の復興は自分たちの手で**」を実施

仙台復興のシンボルイベントにて **環境美化活動**

(1) 8月1日 仙台七夕まつり前



3年目の
平成26年度
も継続

(2) 8月6～8日 仙台七夕まつり開催中での清掃活動ボランティア



夏期休業中
に60人を超
える生徒が
参加

5 校内・炊き出し調理コンテスト&レシピ集制作

(1) 実施年数 **平24年から3年目**

(2) 実施学年・方法

- 1年生が生活班ごとに調理
- 審査委員は、PTA役員5名
:審査基準により賞を授与

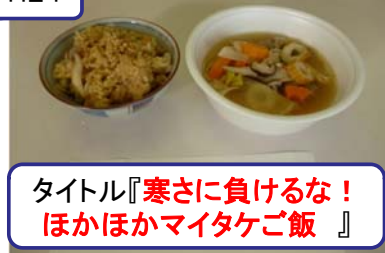


米炊き袋の活用

(3) 調理方法等 → **時間や調理器具、食器等を限定**

災害用の米炊き袋を用い、一食200円以内などの制限

H24



タイトル『寒さに負けるな！
ほかほかマイタケご飯』

H25



タイトル『われらのご飯！
究極のDON』

H26

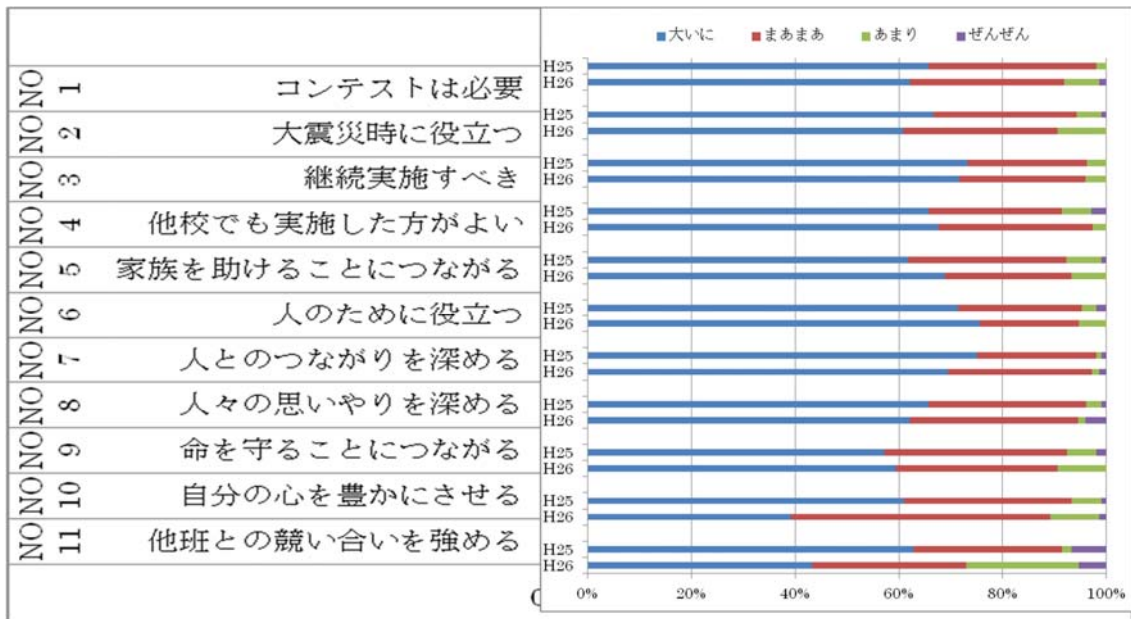


タイトル『豚豚丼丼
(ブタブタドン)』

最優秀賞の炊き出し

H25・H26「炊き出し調理コンテスト」アンケート結果

〈 調査は四件尺度法による質問紙調査〉



- ① 選択肢「大いに」と「まあまあ」をあわせるとNO11以外の項目で9割を超え
- ② 選択肢「大いに」が7割を超えたNO3・6・7から、生徒は、コンテストの継続性、コンテストが人のために役立ち、人とのつながりを深める取組と評価

5 校内・炊き出し調理コンテスト&レシピ集制作



多彩な炊き出し料理の数々

5 校内・炊き出し調理コンテスト & レシピ集制作

平成26年度
新たなレシピの
誕生

平成24年度のレシピ集

組	班	炊き出し調理レシピ名
1組	1	春の香りたよう絶品炊き出し和風仕立て
	2	色とりどりの六色丼、冷や奴
	3	ジバングのごくうま餃子ガンバーハ
	4	Egg is my friend
	5	秋の食事
	6	6班のTAKIDASHI
2組	1	ほかほか温ったか簡単煮物
	2	体&心が温まる肉なし肉じゃが
	3	ポリウム大 あしもの気まぐれ生が焼き
	4	心温まるなつしのお袋の味
	5	簡単! おいしい! あったかレシピ
	6	復興へ! ほくほく飯
3組	1	寒さに負けるな! ほかほかまいたげご飯
	2	ほくほくの黄金ケーキ
	3	仙台風 ☆ Like in
	4	食べてシャキシャキ!! 星空サラダ☆
	5	被災地復興 和風メシ
	6	心も体も温まる winter マジック !!

平成25年度のレシピ集

組	班	炊き出し調理レシピ名
1組	1	Very happy ほかほかごはん
	2	とつけき!! となり の たきだしごはん
	3	Oいしくて Suてきな Sa—もん DON☆
	4	あったかゴロゴロ スープ と 炊き込みごはん
	5	かんたん☆ 1組5班の低価格レシピ
	6	eAT たぬき Rice !?
2組	1	日本 THE 和食 !!
	2	冬に食べたい! あったかジュシーあぶらふ井
	3	秋のほかほか・ごはん
	4	心まで温まる 具たくさん料理
	5	われらのご飯! 究極のDON
	6	~秋にピッタリ! 簡単炒め物~
3組	1	栄養たっぷり きらきらご飯
	2	2班の特製 秋冬ご飯
	3	スタミナ☆ご飯
	4	ほかほか! 豚丼と野菜炒め
	5	心が温まる 激うまランチ!
	6	こりゃ絶品! とうろろ親子丼と秋の味噌汁

平成26年度のレシピ集

組	班	炊き出し調理レシピ名	想定区分
1組	1	納豆チャーハンもやし添え丼	C
	2	豚豚丼 (フタフタドンドン)	C
	3	黄金のメシ	C
	4	超絶のあんかけ丼	B
	5	豚肉と野菜の炒め丼	C
2組	1	いろいろ丼	C
	2	豚づくし丼	B
	3	秋野菜の炒め丼	C
	4	彩り丼 (いろどりどん)	C
	5	牛もしいキュ かまねぎ丼	C
3組	1	なんちゃってピピンパードン	B
	3	野菜ハンバーグ丼	C
	3	ひき肉炒めて にくみそどん	C
	4	Wどんどこ丼	C
	5	Great チャーハン&ポトフ	B

H26・1年は各クラス・5つの生活班

6 防災教育による学校間交流

神戸市立住吉中学校

仙台市立南吉成中学校

生徒会代表による情報・意見交換等の交流

平成7年1月17日
阪神・淡路大震災

平成23年3月11日
東日本大震災

平成26年8月4日・開催

教訓の継承、震災を語り継ぐ、自助と共助、防災・減災と備え
復興支援活動、絆づくり、心のケア、中学生に出来ること



7 移動式かまどベンチの製作

滋賀県立彦根工業高校

平成22年度プラン「手作りかまどベンチ」を参考

通常時:ベンチ & 非常時:かまど

本校では

【機能を付加】 ①**移動式**(キャスター付:適所で利用可)
②**燃料**(まき→プロパン) ③**テーブル化**(腰かけ部分)



生徒が製作



災害時 →かまど



普段 →ベンチ

8 H26年度の防災教育の学習成果を公表・発信

(1) ユネスコスクール東北大会

○東北各県から小・中・高・大の教職員が約100人参加

○1年生90人が合唱

○生徒会が学習成果をプレゼン



(2) 3年生が10テーマ調査学習の成果発表



寸劇を交えて



展示物とともに

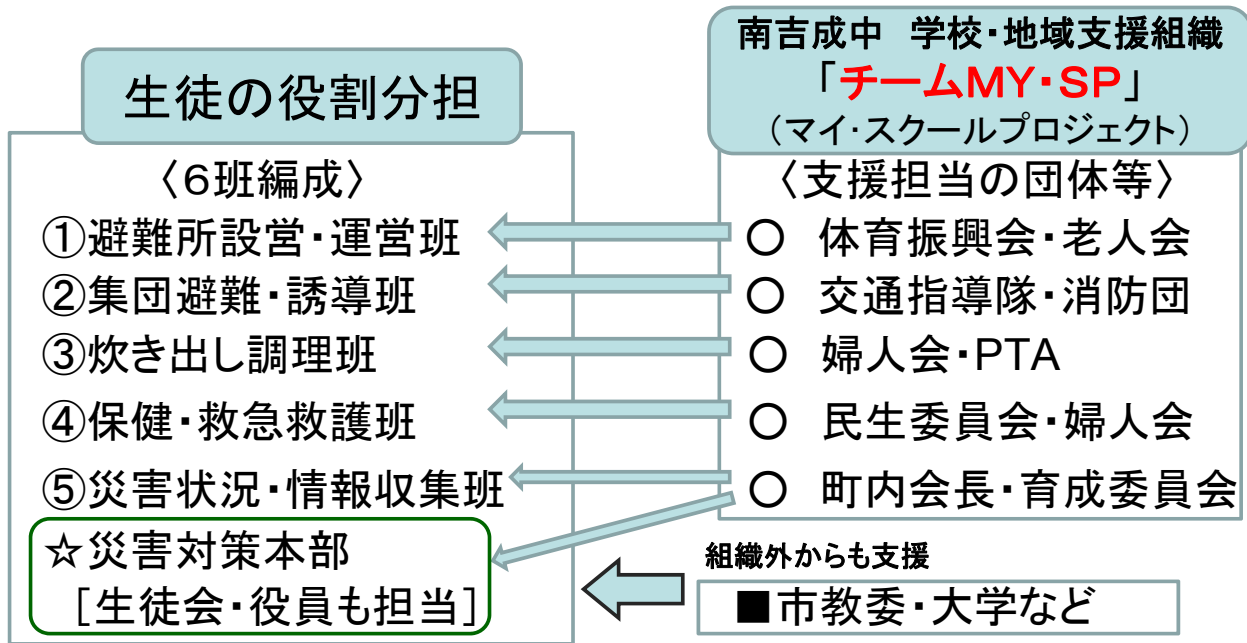


分かりやすく

地域住民
小6年生
中1・2年
生に
ポスター
セッション

9 メインプラン; 生徒主導の地域防災訓練[1]

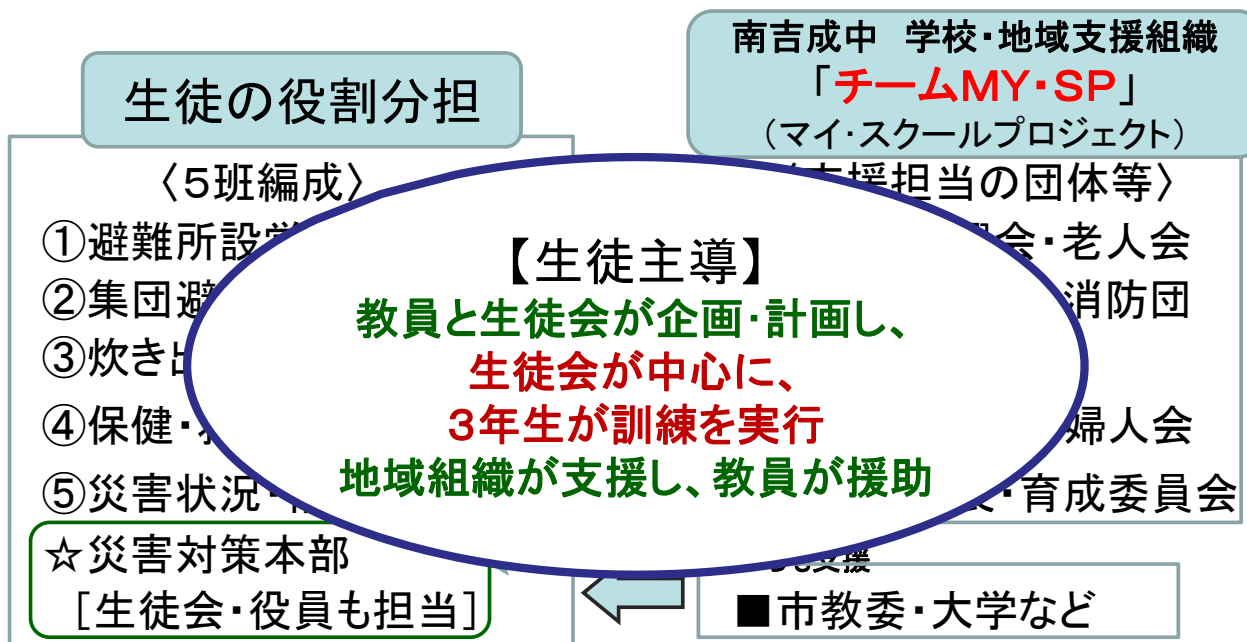
※ 実施日 平成26年11月14日 (昨年11月15日)



生徒の班活動を、組織が分担支援

9 メインプラン; 生徒主導の地域防災訓練[1]

※ 実施日 平成26年11月14日

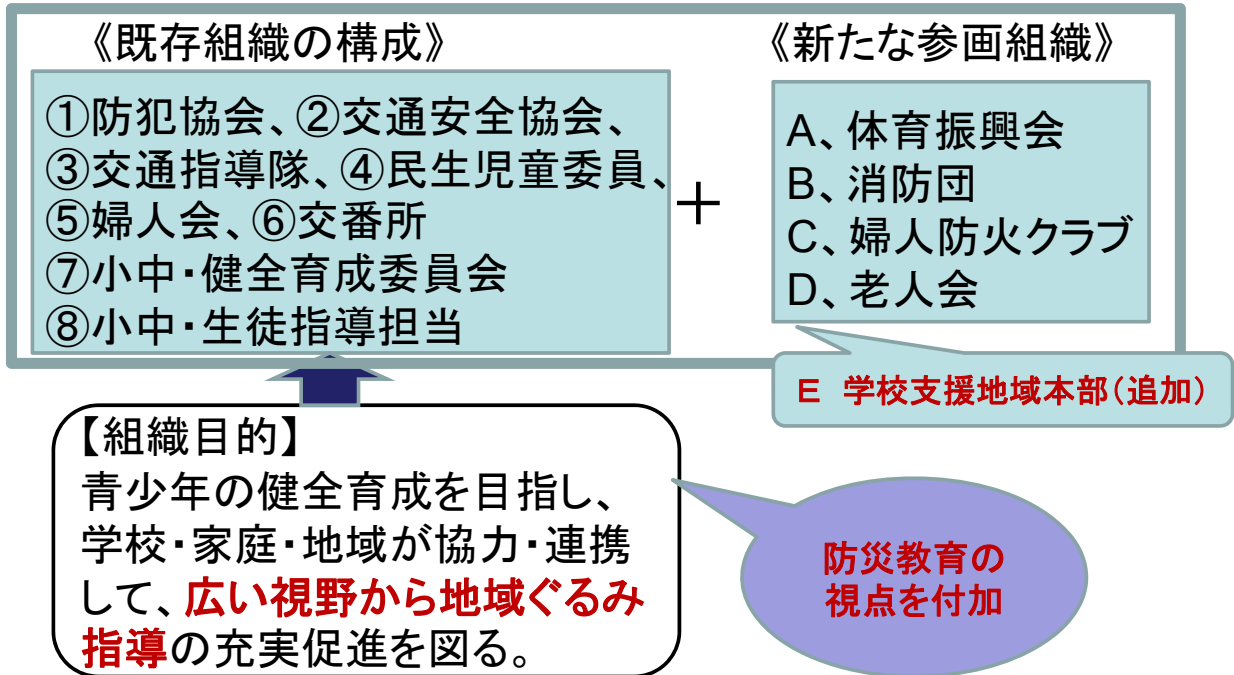


生徒の班活動を、組織が分担支援

9 H26年度 生徒主導の地域防災訓練の概要[2]

南中 学校・地域支援組織 **チームMY・SP** 設立

既存組織「青少年健全育成協議会」を拡大



9 H26・生徒主導の地域防災訓練の概要[3]

時刻	実施概要	3年生の活動	参加者の動向
8:15		生徒の登校	○ 集団避難訓練
8:30	地震発生	避難訓練	・4地区毎に集合
9:00	住民避難・誘導	<班毎に活動>	・生徒が誘導して 避難所へ移動
10:00	避難所開設・運営	生徒会が訓練概要説明	○訓練概要を聞く
10:30	ポスターセッション 3年生が10テーマ で学習成果発表	・炊き出し調理	○避難所・予備体験
11:00		・救急救護	○ポスターセッション に参加・視聴
12:00	炊き出し試食	・地区巡視	
		・避難所運営	
			炊き出し訓練&試食
13:00	講演・シンポジウム	①講演「地震・津波、頻発する自然災害～減災する意識で守る命」 講師 東北大学・災害科学国際研究所	
	生徒会が 司会・運営	②生徒による班活動・報告と成果等の発表	
16:00		③総括講評:(仙台市教委、宮城教育大学)	

9 H26年度の生徒主導の地域防災訓練の様子[4]

班ごとの活動の様子

(1) 避難所設営・運営班



受付・相談の対応



訓練概要等の説明

(2) 炊き出し調理班



生徒36人が
炊き出し調理

炊き出し
の配給



(3) 集団避難・誘導班



一時避難場所を出発



学校へ集団避難



参加者、小・中学生
の630人が試食
H25 → H26
550食→ 650食
を提供

9 H26年度の生徒主導の地域防災訓練の概要[5]

班ごとの活動の様子

(4) 救急・救護班



救護ブースの様子



生徒の康相談

(5) 災害状況

・情報収集班



各家庭を訪問

午後の講演会
チラシを配布



(6) 災害対策本部(生徒会)



本部の指示伝達



本部での状況報告



地域にて、
情報収集

9 H26年度・生徒主導の地域防災訓練の成果[6]

生徒と参加者のアンケート調査結果

- (1) 調査対象・・・小6年生、中1～3年生、参加した住民・保護者
 (2) 調査方法・・・四件尺度法による11項目の質問紙調査
 (3) 結果・・・選択肢“大いに”と“まあまあ”を加えた割合は、
2ヶ年ともにほぼ全ての項目で9割を超え、良好な評価結果
 選択肢“大いに”がH25より最も高く増加した項目は
3年生：「地域と学校と一緒に活動することで地域活性化につながる」 H25・**71.8%**→H26・**80.4%**
住民：「本日の訓練を活動・体験して、良かった・ためになった」 H25・**58.6%**→H26・**70.3%**
 (4) 相関分析・・・3年生は“**学校と地域と一緒に取り組む、防災訓練の必要性や防災教育の重要性**”強く相関を認識

9 H26・生徒主導の地域防災訓練の概要[7]

中学生が主導する地域防災訓練のタイプ分類は以下の表に示す。

訓練タイプ	日		時		季節				学校		訓練参加者					
	平日	休日	昼間	夜間	春	夏	秋	冬	開	閉	中 学 高	小 学 中 低	PTA	組 織	地 域	自 由
タイプA	○		○				○		○		○		○	○	○	
タイプB	○		○				○		○		●		○	○	○	
タイプC		○	○				○		○		○	○	○	○	○	
タイプD	○			○			○		○		○	○	○	○	○	
タイプE		○	○				○		○		○	○	○	○	○	○

※1、組織：学校支援組織MY・SP隊、※2、自由：訓練当日に事前申込無しで参加

- 平成25年度 → タイプA
 ○平成26年度 → タイプB
 ○昨年度との違いは、小学校**6年生が新規参加**

異なるタイプで訓練

年々、
難易度を
向上

訓練規模を**550人から630人に拡大**

10 本プランの検証について[1]

(1) 生徒主導による地域防災訓練を実践した3校・比較

学校名	地域特性の概要	生徒数	学校支援組織	生徒主導の地域防災訓練
A中 (丸森東中)	中山間地域で、少子高齢化と過疎化、兼業農家が多い	約50人	丸東・改援隊 (隊長：PTA会長) (名誉隊長：公民館長)	H21～H22 (H24.3廃校)
B中 (金ヶ瀬中)	県南の中心地近郊で、跡継ぎ不足で農業が衰退	約100人	金未来隊 (隊長：公民館長)	H22から継続実施
C中 (南吉成中)	仙台近隣の丘陵地で、大規模宅地開発されて二十数年経過	約320人	チームMY・SP (会長：連合町内会長)	H25から実施

※ 連合町内会長とは、学区内の7町内会を束ねる町内会長の代表者

A中はH23.3の震災で校舎破損、他校を間借りのため継続が不能。B中はH22から継続実施。

10 本プランの検証について[2]

(2) メイン・プラン“生徒主導の地域防災訓練”と

3校で実践している多様なサブ・プランの関連

	実践プランのねらい	実践プランの内容	実践の学校		
			A中	B中	C中
1	震災を学ぶ (専門家の講演)	地震を学ぶ 教訓を学ぶ 東北大学地震・噴火予知研究観測センター長の講演(講師：海野教授) 津波被災農家の方々の講演(講師：若林区荒浜の被災農家)	○	○	○
2	復興を知る・学ぶ	復興支援の活動を行う 津波被災した中学校の復旧支援活動 津波被災の農家に弟子入り体験学習 仙台復興シンポライトを支援する清掃奉仕活動		○	○
3	震災に備える	備蓄食材の栽培加工 農家に弟子入り体験学習 地域特性リスクを学ぶ 防災スキルを習得する 避難所の設備を整える 備えを調べる	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
4	訓練を行う メインプラン	支援組織と訓練の検討(企画・内容・計画・実行) 中学生が地域防災訓練を行う	○ ○	○ ○	○ ○
5	実践を広める	成果を発信 地元へ 外部へ	○	○	○
6	評価・改善する	PDCAマネジメント 自己評価 外部評価 関係者評価	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

10 本プランの検証について[3]

(3)メイン・プラン“生徒主導の地域防災訓練”実施後の

生徒アンケート調査の3校・比較

NO	調査項目の内容	学 校	大いに	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	地域だけの訓練に比べ、学校と地域が一緒になって、防災訓練を行う必要がある	C 中	84.5	13.6	1.9	0
		B 中	54.5	42.0	2.3	1.1
		A 中	80.9	14.9	4.3	0
2	中学生が主導する地域防災訓練により、中学生は地域防災に貢献できる	C 中	88.3	11.7	0	0
		B 中	19.3	71.6	8.0	1.1
		A 中	51.1	48.9	0	0
3	本日の訓練で活動・体験して、良かった・ためになったと感じる	C 中	78.6	21.4	0	0
		B 中	43.7	47.1	6.9	2.3
		A 中	61.7	38.3	0	0
4	実際に大震災が起きた場合、地域防災訓練は役立つと思う	C 中	68.6	26.5	4.9	0
		B 中	35.2	53.4	8.0	3.4
		A 中	61.7	34.0		
5	中学生が主導する地域防災訓練は、毎年、実施する必要がある	C 中	61.2	35.0		
		B 中	44.2	47.7		
		A 中	53.2	38.3		
6	中学生や学校が地域防災訓練を行ったり、協力したりすることは必要と感じる	C 中	84.5	15.5		
		B 中	59.1	39.8		
		A 中	72.3	27.7		
7	地域や学校と一緒に様々な活動や取組を行うことは、地域活性化につながる	C 中	71.8	25.2		
		B 中	45.5	51.1		
		A 中	59.6	40.4		
8	地域防災訓練などの防災教育は、大切だと感じる	C 中	84.3	15.7		
		B 中	42.0	46.6	9.1	2.3
		A 中	65.2	34.8	0	0

選択肢“大いに”
と“まあまあ”を
あわせた割合は、
いずれの項目も
9割程度以上を占
めている。

10 本プランの検証について[4]

3校・比較した[1]地域特性等、[2]サブ・プラン、[3]データ等から鑑み、以下にまとめをする。

- ①汎用性・・・地域特性等が異なる3校で、実践可能
- ②継続性・・・学校支援組織との連携からも、
継続実践の可能性が向上
- ③発展性・・・地域特性等を活かす、
多様なサブ・プランの実践
- ④有効性・・・様々な調査データから、
成果・効果等を確認

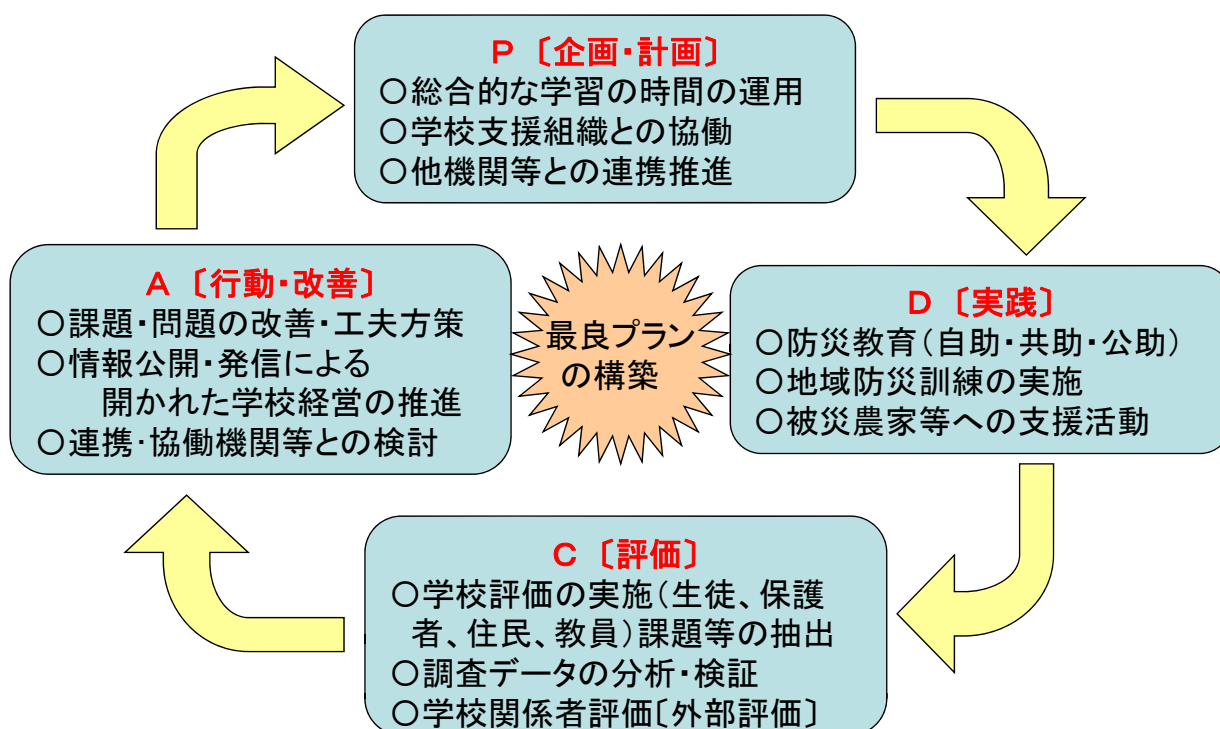
本プランは、サブ・プランにより防災・減災の知識とスキル、行動等を身に付け、活動意欲を高め、生徒がメイン・プランを実行し、学校・地域支援組織が連携・支援する企画提案である。

11 学校・地域支援組織と中学生・主導による取組の教育的ねらい・効果

- ①地域の有識者からなる組織の支援は、地域と連携・地域を巻き込む必要がある教育実践に有効
↳ (防災力向上や安全・安心な町づくりは、学校と地域の共通目標)
- ②教職員が転勤しても組織と生徒会が継続し、教育実践の持続可能性が高い(地域防災ニーズの充足と教訓の継承)
- ③地域特有の防災教育の在り方の追究や産業・文化等を学ぶ機会や体験が拡充(人材バンク、農業・伝統文化・芸能等)
- ④中学生が防災・減災の知識、スキル、行動等を学び、継続実践により、現在から将来にわたる地域防災の担い手を育成
- ⑤組織的な防災教育を推進することで、生徒と住民等との関わり・つながりを深め、学校・地域・家庭が連携し、住民と生徒による地域活性化と安全・安心な街づくりに波及・寄与

12 PDCAによる検証・改善

<より優れたプランに向けた改良のサイクル>



最後に〈東日本大震災を鑑みた本プランの方略〉

- ①支援の輪が広がることを願い、復興支援による交流活動の拡充と広報【「支えられる人」から「支える人」へ変容】
- ②地域の防災・減災文化の構築を目指し
中学生が主導する地域防災訓練の継続と拡大
- ③大震災の教訓を受け継ぐ取組として[仙台→東北→全国]
中学生による『炊き出し調理コンテスト』の全国的開催
〈作りながら、食べながら、語り継ごう震災を〉
- ④地域・学校単位の防災教育を拡充・発展するため、
地域防災教育・学会や研究会の創設を図る

義務教育と中学生には、大震災を風化させない“使命”
と“力”がある。未来を担う生徒のために、防災教育を
全ての学校で必修化することを願う。



2007年5月7日 定禅寺通

ご清聴ありがとうございました。

仙台市立南吉成中学校

